

昭和の偉業〈国土緑化〉と天皇皇后両陛下

羽賀 正雄 (S-4157・茨城)

第二次大戦の終結は、昭和期最大の国難であり「荒れた国土の再生」は、復興へ向かっての大事業「国土緑化運動」としていち早く取組まれました。「全国植樹祭」は昭和25年から天皇皇后両陛下ご臨席のもとに「国民参加の森林づくり」の拠点として開催され、大きな役割を果たしてきました。

この作品は、その経過をベースとして、天皇皇后両陛下の「お手植え」のお姿にもふれながら、昭和の偉業＝国土緑化についてまとめたものです。

昭和の偉業＝国土緑化と昭和天皇

第2次大戦の終結は、昭和期最大の国難であり「荒れた国土の再生」は、復興へ向かっての大事業「国土緑化運動」としていち早く取組まれました。「全国植樹祭」は昭和25年から天皇皇后両陛下ご臨席のもとに「国民参加の森林づくり」の拠点として開催され、大きな役割を果たしてきました。この作品は、その経過をベースとして、天皇皇后両陛下の「お手植え」のお姿にもふれながら、昭和の偉業といえる国土緑化についてまとめたものです。当時沖縄県は、琉球米国民政府下でしたが、愛林週間を設け、沖縄戦で焦土化した荒地の緑化に取り組んでいました。そして、昭和天皇の国土緑化へのご尽力は、平成・令和へと継承されています。(なお参考までに、郵政省が国土緑化PR用に発行したパンフレットを緑化運動資料として展示します。)

【目次】

1. 植樹の日 (Arbor Day) の発祥
2. 我が国＜植樹の日＝愛林日＞の発祥
- 3～4. 戦後＜国土緑化運動＞のスタート
5. 産業国家切手＜植林＞の発行
6. 第1回全国植樹祭の開始
7. 第2回～15回
8. 第16回 (鳥取)
9. 第10回 (埼玉)、第19回～第21回 (富山、秋田、福島)
10. 第22回 (鳥取・広島) 以降毎年発行
11. 第23回 (新潟)、第24回 (宮崎)
12. 第25回 (岩手)、第26回 (滋賀)
13. 第27回 (茨城)、第28回 (和歌山)
14. 第29回 (高知)
15. 第30回 (愛知)
16. 第31回 (三重)
17. 第32回 (奈良)
17. 第33回 (栃木)
18. 第34回 (石川)
19. 第35回 (鹿児島)
20. 第36回 (熊本)
21. 第37回 (大阪)
22. 第38回 (佐賀)
22. 第39回 (香川)
23. アケボノスギに昭和天皇を偲ぶ
- 24～6 沖縄／琉球郵便
25. 国土緑化運動の成果
26. 昭和の偉業＝森林資源の基礎づくり

【出典】

1. 国土緑化推進委員会「国土緑化30年の歩み」1982
2. 国土緑化推進機構「国土緑化運動50年」2000
3. 各府県「植樹祭記念(記録)誌」、同「青樹祭記念誌」
4. 中須賀常雄「沖縄林業の変遷」1995
5. 上原政二「樹木の美性と愛護」1975
6. 内藤雄介「解説戦後記念切手」2001, 04, 05,



お手植えなされる昭和天皇、最後のお姿
(昭和62年・第38回全国植樹祭・佐賀県)



国土緑化記念切手(平成元年第70回・愛知県2回目)/昭和54年第30回全国植樹祭で昭和天皇お手植えのヒノキ



平成15年第27回青樹祭で、1回目の植樹祭でお手植えされたヒノキのお手入れをなされる皇太子殿下(現令和天皇)

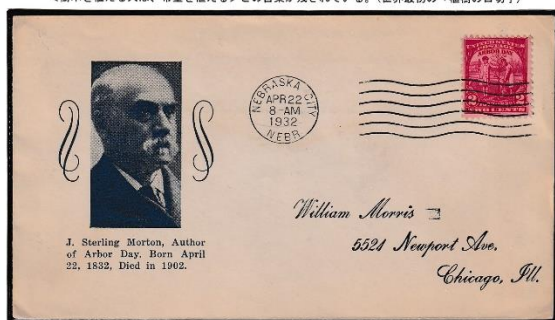
1

1. 植樹の日 (Arbor Day) の発祥

古来、植樹・植林は実施されてきたが、法令に基づき「植樹の日」を定め、広く市民参加のもとに組織的に植樹が実施されたのは、1872年、米国ネブラスカ州においてである。同州は、中央部乾燥地帯に位置し各種の災害に悩まされていたが、モートン州知事は4月10日を植樹の日と定め、その災害の解消に努め、植樹運動の先導として成果をあげた。

植樹する男女児童／「植樹の日」制定60年・J.S.モートン生誕100年(1832.4.22～1902)記念[FDC]

＜樹木を植える人は、希望を植える＞との言葉が残されている。(世界最初の「植樹の日切手」)



【米国・fancy cancel】書留便：1932.4.22 初日印 ARBORVILLE 局→CHICAGO 局 1932.4.26 (裏面：消印)

2

2. 我が国＜植樹の日＝愛林日＞の発祥

造林事業としての植林は、室町時代から安土桃山時代において、木材需要にともなって消費地を中心に行われ、徳川時代にいたって、各藩の造林奨励策のもとにスギを主体に林業地帯が形成された。明治に入り森林法が制定され、国土保全をベースとした植林が進められた。「アーバーデー」につながる植林は、大正から昭和初期(大戦前)に「愛林日＝植樹日(植樹デー)」として多くの都道府県で実施されている。

- ・昭和9(1934)年大日本山林会が山林局(現林野庁)支援のもとに4月2日～4日を「愛林日」定め、全国統一的な植林運動がスタートし、昭和19年まで続けられた。
- ・同年には「愛林日記念植樹」が、茨城県筑波山麓(真壁町)で開催され、スギ、ヒノキが植栽されており「全国緑化行事＝全国植樹祭」の発祥とされている。昭和61(1986)年に記念碑建立(右写真)、昭和天皇ご在位中。平成25(2013)年「林業遺産」に指定される。



＜全国緑化行事発祥之地＞記念碑

3. 戦後＜国土緑化運動＞のスタート

国破れて山河在り…山河は残ったが、山々は、戦中の軍需材、戦後の復興材・薪炭材の過伐によって、荒れ果て荒山が目立ち、その復旧＝緑化が急務となった。大日本山林会主導のもとに、昭和22(1947)年「森林愛護連盟」が結成され、同年4月4日都内で東京地下(現上皇)のご来臨を受けて、記念植樹が行われた。愛林日行事の復活であり、戦後の国土緑化運動のスタートである。



・昭和23(1948)年には、都内青樹市において、天皇皇后両陛下ご臨席のもとに開催され、現在に至る「全国植樹祭」の基礎がつけられた。

【初めての緑化運動切手の発行】
愛林日の記念植樹と呼応して、4月1日に「全国緑化運動」PR切手が発行された。前部、米国に次ぐ先駆的な発行である。デザインは、30面シート、緑一色の緑なし印画、耳紙の切手名に「荒れた国土を平和な緑で」、中央には大地に根を張る大樹などアピール力がある。印画には当時の記念切手の本義論から発行目的は無いが、デザインが語っている。

黒点：定常変種

3